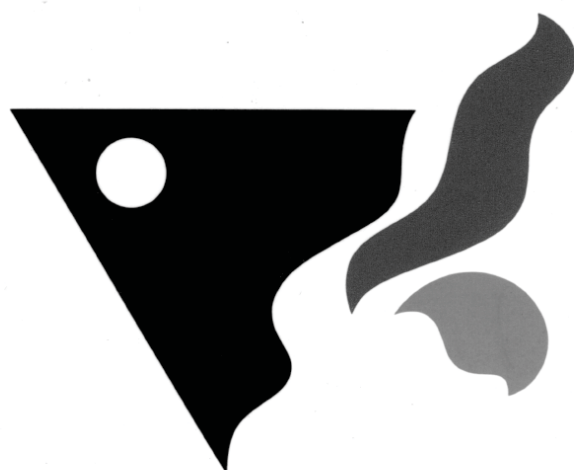


# 食品衛生検査所事業概要

令和元年度



**YOKOHAMA MARKET**

横浜市場

横浜市中心卸売市場

本場食品衛生検査所



## 事業概要発行にあたって

日頃より中央卸売市場本場における食品の安全・安心な流通にご協力いただきまして有難うございます。

令和 2 年度は 4 月に新型コロナウイルス感染症による緊急事態が宣言され、世の中の多くの業務が制限されました。在宅勤務、テレワークという新しい考え方や多人数での会議の中止等、いろいろな経験を得ました。これにより、全国食品衛生検査所協議会のブロック大会も誌上開催でおこないました。

このような社会状況の中でも中央卸売市場での食品の流通は市民生活に欠くことのできない重要な業務として継続されました。もちろん、このようなコロナ禍にあっても流通する食品の安全・安心を担保することが重要であることは言うまでもありません。

市場での流通食品の安全・安心、HACCP の推進、アニサキスやカンピロバクターによる食中毒の防止等、多くの課題がある中、ひとつひとつ解決し、消費者・営業者・行政が『食品の安全・安心』という同じ目的を達成できるように今後もリスクコミュニケーションを図りながら取り組みたいと思います。

令和元年度は 9 月に南部市場の『賑わいエリア』が大型新規店舗としてリニューアルオープンしました。南部市場の『物流エリア』は本場市場を補完する施設として本場食品衛生検査所が引き続き担当していきます。

コロナ禍の中、私たちが取り組みました令和元年度の業務を本場市場分ならびに南部市場分をまとめ、『事業概要』を作成しました。ご高覧いただければ幸いです。

令和 2 年 10 月

横浜市中心卸売市場本場食品衛生検査所  
所 長 鳥 海 正 次

# 目 次

## 第1 総説

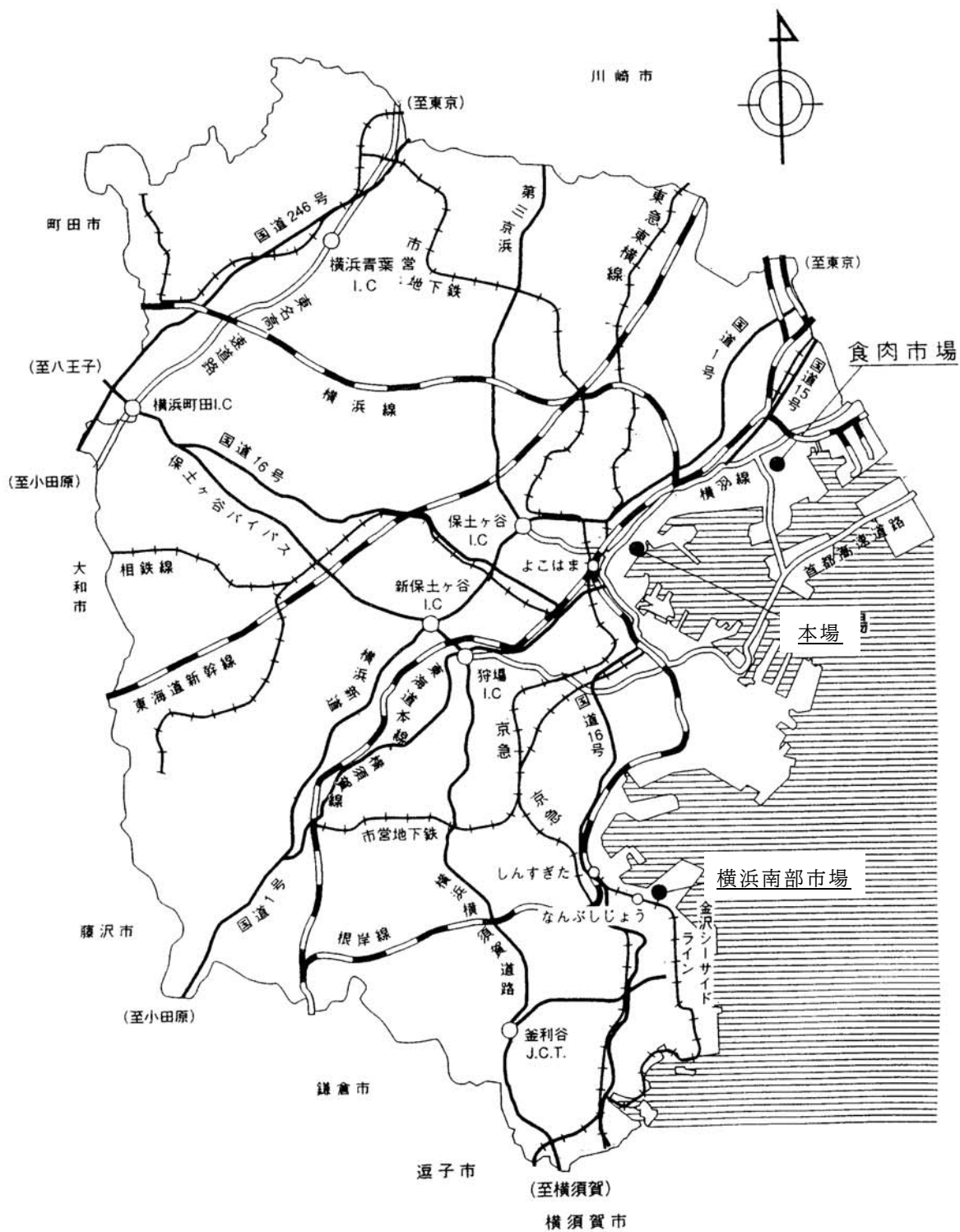
1 沿革	1
2 市場の概要	2
(1) 面積	2
(2) 取扱量の推移	2
(3) 場内業者の内訳	3
3 市場及び検査所平面図	4
(1) 中央卸売市場本場	4
(2) 横浜南部市場	5
4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ	6
5 検査所職員内訳	6
6 検査所の業務について	7
7 主要試験検査機器一覧	8

## 第2 業務実績

1 業務実績	11
2 令和元年度主要業務一覧	14
3 令和元年度監視業務実績	16
4 令和元年度食品別検査状況	17
5 食品分類別・項目別検査状況	
(1) 理化学検査実施項目数	18

(2) 細菌検査実施項目数 .....	19
(3) 食品中の放射性物質 .....	20
(4) 残留農薬 .....	27
(5) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)...	32
(6) 水銀 .....	33
(7) PCB .....	34
(8) 貝毒 .....	35
(9) ふぐ毒 .....	35
6 違反食品等一覧 .....	36
7 相談対応 .....	37
8 衛生教育実施結果 .....	38
9 その他の業務 .....	38
～市場食品衛生検査所関係年表～ .....	39

# 横浜市中心市場等位置図



# 第1 総説



本場全景  
国土地理院の空中写真  
令和元年6月16日現在



横浜南部市場全景  
国土地理院の空中写真  
令和元年6月16日現在

# 1 沿革

昭和6年 中央卸売市場本場開場(市人口65万人、対象100万人)。

昭和22年2月 神奈川県が横浜市内に中央卸売市場監視室を設置、食品衛生監視員2名が 駐在。

昭和25年4月 横浜市に食品衛生事務が委譲される。

昭和25年5月 神奈川保健所分室食品衛生検査室発足、同保健所から食品衛生監視員4名を派遣駐在。

昭和45年9月 衛生局公衆衛生課所轄の食品衛生検査所となる(8名配置)。

昭和48年 10名配置となる。

昭和48年10月 中央卸売市場南部市場食品衛生検査所設置。

昭和48年11月 中央卸売市場南部市場開場、同時に南部市場食品衛生検査所業務開始(6名配置)。

昭和49年 南部市場食品衛生検査所10名配置となる。

昭和53年4月 14年計画の「本場再整備事業」開始。

昭和60年1月 同計画の一部が終了、本場食品衛生検査所新庁舎完成。

昭和61年6月 中央卸売市場本場食品衛生検査所が衛生局保健部所轄となる。

同所長が行政権限の大幅な委任を受けるとともに、南部市場食品衛生検査所を統轄。

平成2年6月 機構改革にともない衛生局保健部が分割され、生活衛生部が設置される。

生活衛生部所轄となる。

平成5年7月 本場食品衛生検査所に食品監視機動班(3名)が設置される。

平成6年7月 機構改革にともない、南部市場食品衛生検査所が課制となり、生活衛生部所轄となる。

平成11年4月 機構改革にともない、本場食品衛生検査所内の機動班が廃止され、新たに食品専門監視班として食品衛生課に設置される。

平成18年4月 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部所轄となる。

平成19年4月 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部が市保健所を兼ねる。

平成27年3月 中央卸売市場南部市場の中央卸売市場としての廃止とともに、南部市場食品衛生検査所を閉所。本場食品衛生検査所と統合(12名配置)。

令和元年9月 南部市場「賑わいエリア」がリニューアルオープン。

令和2年3月 南部市場「賑わいエリア」の金沢区福祉保健センター移管に伴い、10名配置となる。



## 2 市場の概要

### (1) 面積

用 途	本 場
敷 地 面 積	115,843平方メートル
建 物 延 面 積	131,789平方メートル
卸 売 部	17,903平方メートル
青 果 部	10,835平方メートル
水 産 物 部	5,458平方メートル
鳥 卵 部	260平方メートル
( 低 温 )	(1,350平方メートル)
仲 卸 部	4,599平方メートル
青 果 部	1,599平方メートル
水 産 物 部	2,960平方メートル
関連棟事業者店舗	1,926平方メートル
倉 庫	1,433平方メートル
冷 蔵 庫	10,571平方メートル
配 送 セ ン タ ー	5,460平方メートル
駐 車 場 ( 台 数 )	1,936台

(令和2年3月31日現在)

備考)施設面積は、使用指定・許可面積。卸売部の低温は卸売部の青果部と水産物部の一画。

### (2) 取扱量の推移

単位(トン)

取扱部門	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
青果	371,573	354,942	352,329	351,994	356,478
水産	57,435	64,156	58,114	53,468	48,249

(令和2年3月31日現在)

南部市場は平成27年4月以降、市場外指定保管場所、市場外施設として卸売業者・仲卸業者・売買参加者が本場で取引した物品の受け渡しを行い、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用されています。

#### ・市場外指定保管場所(卸売市場法第39条、横浜市中心卸売市場業務条例第42条)

卸売業者からの申請に基づき市長が市場外指定保管場所として指定します。市場外指定保管場所とは、産地から物品を、市場を経由しないで直接受け渡しできる場所です。

#### ・市場外施設(横浜市中心卸売市場業務条例第49条)

仲卸業者は開設者に届け出れば、市場外に貯蔵・保管・仕分け・配送等の場所を設置することができます。市場外施設では、買い手から注文があった物品を受け渡すことができます。

### (3) 場内業者の内訳

本場市場内卸業者	卸売業者数	仲卸業者数
水産物部	2	60
青果部	2	28
鳥卵部	1	0
合 計	5	88

(令和2年3月31日現在)

本場市場内関連事業者	業者数
食料品卸売業	9
買荷保管業	1
運送業	3
倉庫業	2
加工業	2
飲食営業	12
必需品販売業	4
金融業	1
理容業	1
合 計	35

(令和2年3月31日現在)

#### 食品衛生法による分類

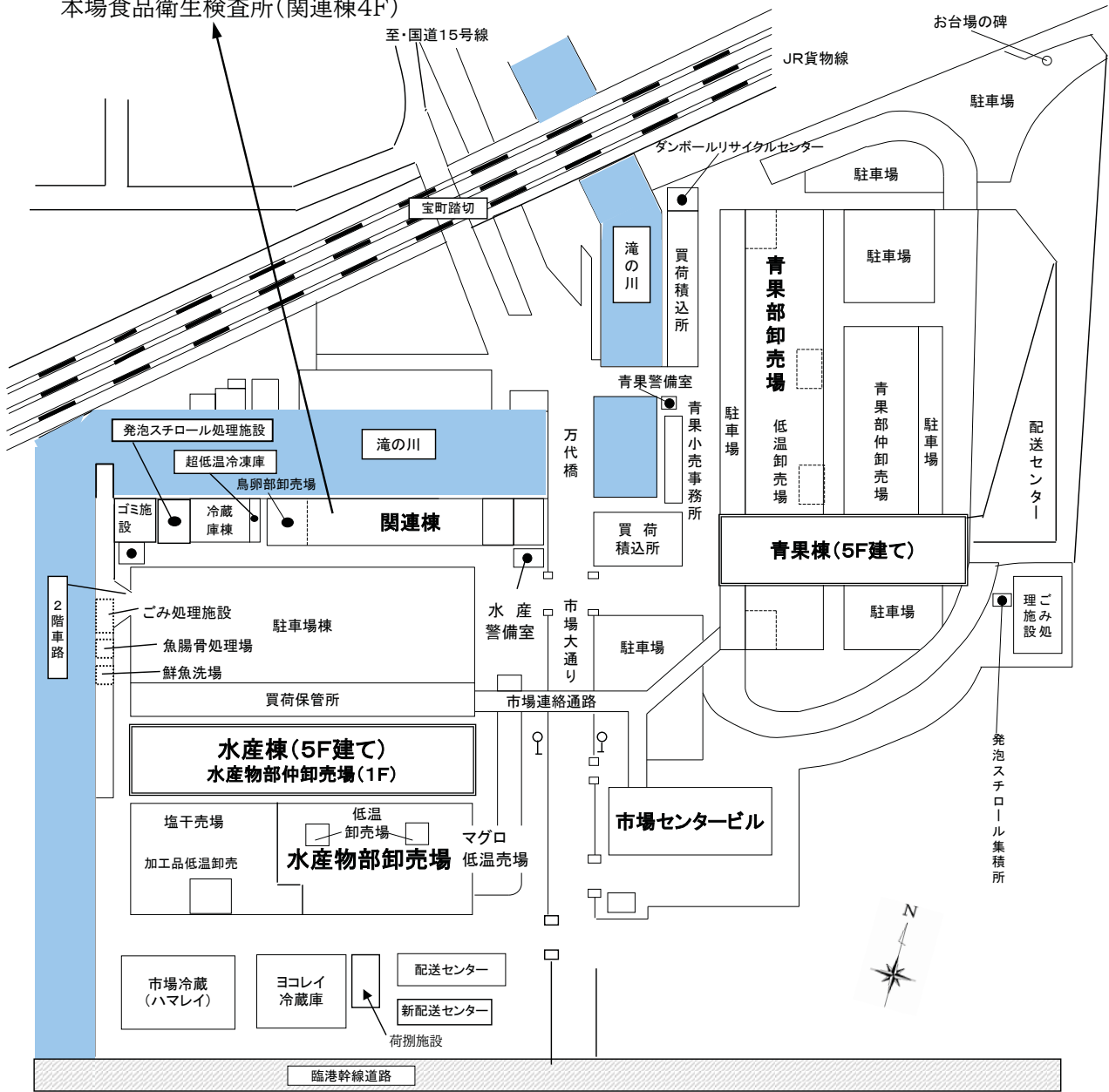
営業の種類	本場件数	南部市場件数
飲食店(自動販売機)	0	3
飲食店(その他)	24	22
菓子製造業	1	1
魚介類販売業	105	53
魚介類せり売営業	2	0
魚肉ねり製品製造業	1	0
食品の冷凍又は冷蔵業	13	10
喫茶店(自動販売機)	13	5
喫茶店(その他)	1	0
乳類販売業(自動販売機)	3	1
乳類販売業(その他)	7	8
食肉処理業	1	1
食肉販売業	17	12
醬油製造業	0	1
そうざい製造業	7	2
ソーズ類製造業	0	0
氷雪製造業	1	0
氷雪販売業	1	1
魚介類行商	6	10
魚介類加工業	9	7
発酵乳等販売業	1	1
事業所給食施設	1	0
野菜果物販売業	43	33
菓子販売業	1	14
食品販売業	38	32
食品製造業	7	3
そうざい販売業	1	10
弁当類販売業	1	4
酒類販売業	0	3
器具・容器包装・おもちゃ製造販売業	4	5
合 計	309	242

(令和2年3月31日現在)

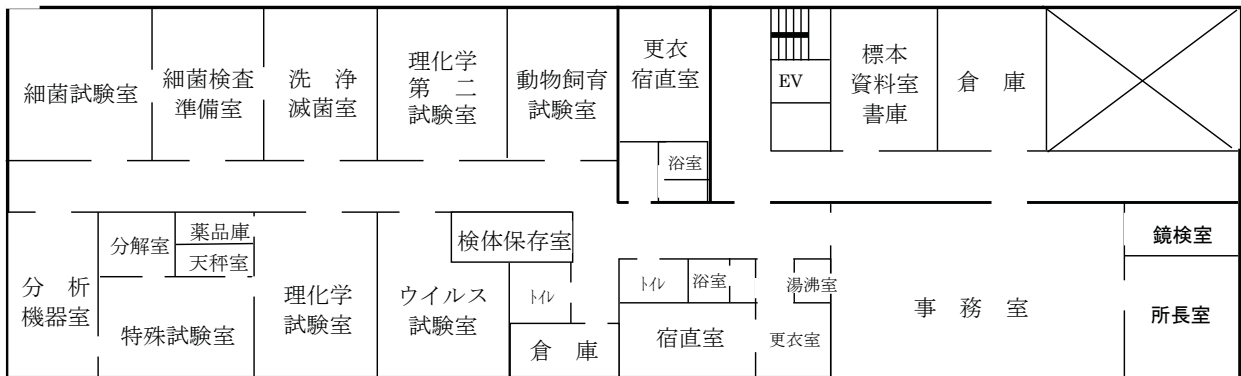
### 3 市場及び検査所平面図

#### (1) 中央卸売市場本場 平面図

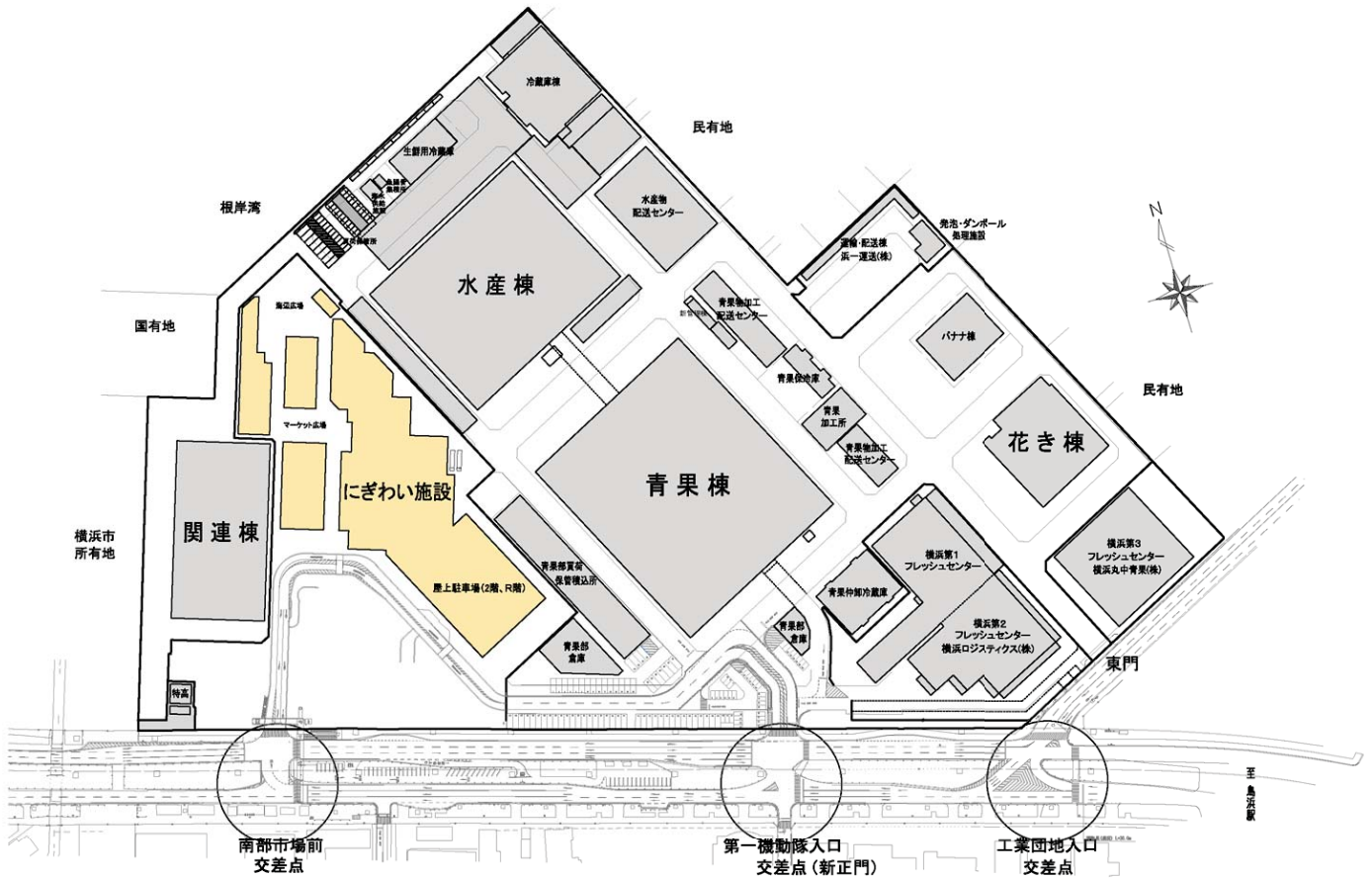
本場食品衛生検査所(関連棟4F)



中央卸売市場本場食品衛生検査所 総面積744.0㎡



## (2) 横浜南部市場 平面図

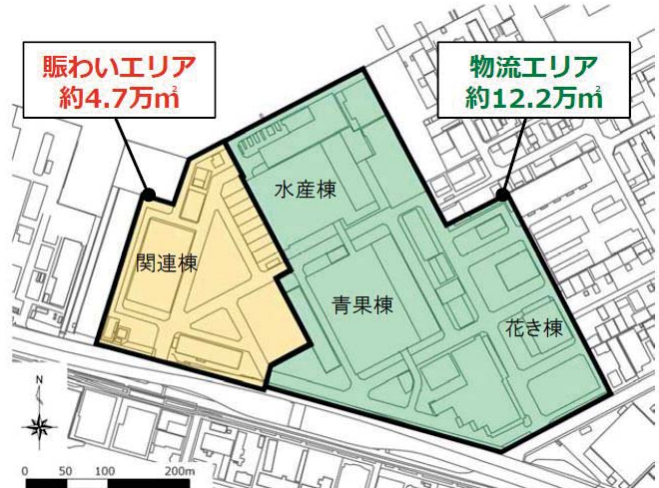


令和2年3月31日現在

### 《参考》「物流」と「賑わい」を合わせ持った新たな横浜南部市場

市場の再編・機能強化に伴い、南部市場を、中央卸売市場本場を補完する「物流エリア」(約 12.2 万㎡)と、民間事業者のノウハウを活用して「食」をコンセプトとした集客施設を整備する「賑わいエリア」(約 4.7 万㎡)に分けて活用しています。

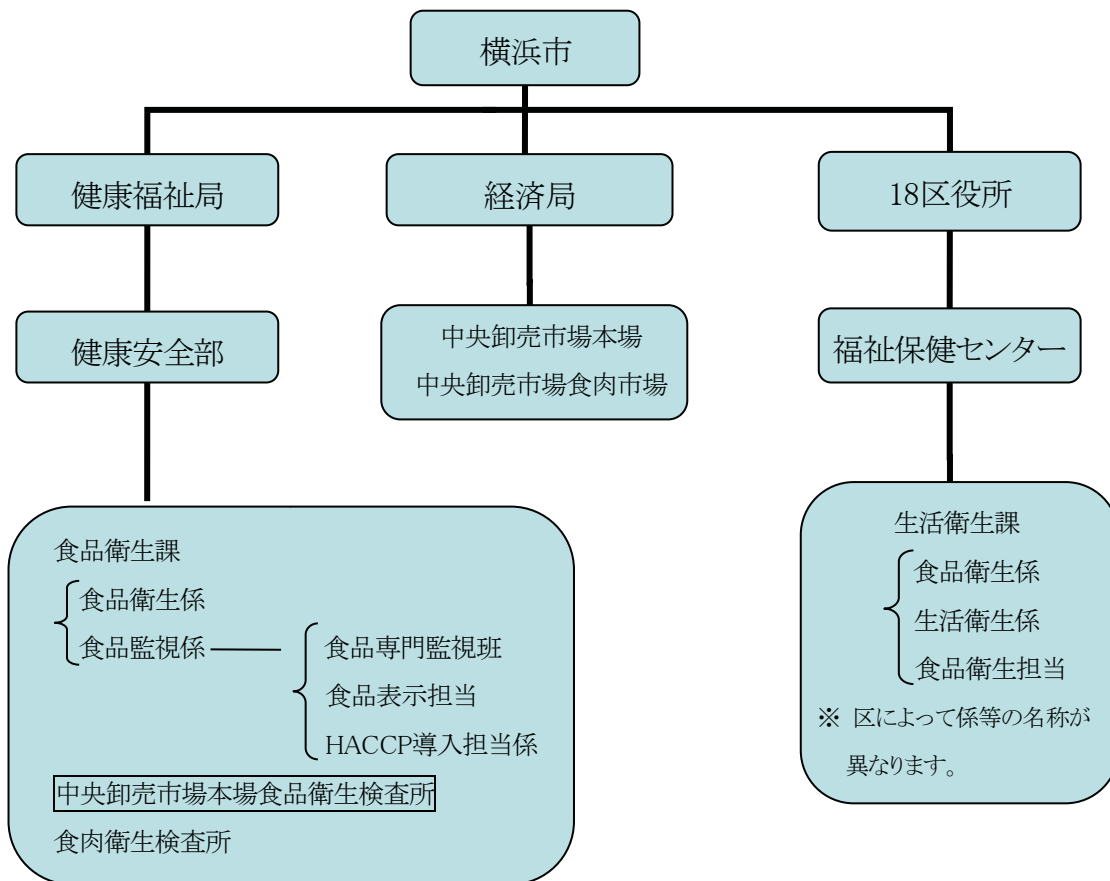
「賑わいエリア」では民間事業者が運営する「ブランチ(BRANCH)横浜南部市場」と、40年以上にわたり関連棟として営業を行ってきた食品関連卸売センターが「横浜南部市場 食の専門店街」として令和元年9月20日に開業し、令和元年度末に地元金沢の福祉保健センターに所管替えが行われました。



## 4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ

横浜市には、中央卸売市場として本場、食肉市場があり、いずれも横浜市経済局が運営しています。

これらの市場には、それぞれ食品の衛生確保を図るために食品衛生検査所等(以下「検査所」という。)が設置され、各市場を経由し市中に流通する食品の検査を行っています。検査所は、横浜市健康福祉局健康安全部に属しており、食品の安全・衛生を確保する各区の福祉保健センターと連携して市場内の監視と検査を分担しています。



## 5 検査所職員内訳

総数	所長	係長	食品衛生監視員	事務
15	1	2	11 (うち細菌検査室5理化学検査室6)	1

(平成31年4月1日現在)

## 6 検査所の業務について

現在、早朝勤務と通常勤務の二体制で業務を行っています。

### (1) 早朝勤務

「せり」の前に、せり場において監視指導及び収去を行っています。

2名一組で週3～4回実施しており、検査所における収去の大部分はこの早朝勤務で行っています。

せり終了後は仲卸業者、関連業者に対して監視指導を行っています。

早朝勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 食品等取扱の監視及び指導
- イ 食品等の表示点検
- ウ 貝類等が各種規制に適合しているかの調査
- エ 有毒魚等の排除
- オ 食品の収去

### (2) 通常勤務

始業時のミーティングにおいて、早朝勤務の報告や一日の方針などの打合せを行った後、場内巡回による監視指導等を行い、検査業務に移ります。

通常勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 仲卸業者、関連業者、行商作業場その他場内全般について、前記(1)ア～オの業務
- イ 場内関係者との打合せ及び各種業務連絡
- ウ 検査業務
  - (ア) 細菌検査
  - (イ) 理化学検査
  - (ウ) 病理寄生虫検査
- エ 検査成績書の作成・交付
- オ 違反品・不良品等の処理
- カ 苦情・各種衛生相談等問合せの処理
- キ 場内店舗の許可調査
- ク 講習会等の開催

## 7 主要試験検査機器一覧

### (1) 細菌検査室

品名	数量
電気ふらん器	7
嫌気性培養装置	1
超音波洗浄器	1
顕微鏡	2
顕微鏡撮影装置	2
ストマッカー	2
システムダイリ्यूター	4
ホモジナイザー	2
冷蔵庫(培地保存用)	5
冷凍庫(試薬・検体保存用)	2
高圧滅菌器(ガス式)	3
高圧滅菌器(電気式)	4
ウォーターバスインキュベーター	2
乾熱滅菌器	2
電子上皿天秤	2
超音波ピペット洗浄器	2
ウォーターバス	2
コロニーカウンター	3
ドライイングシェルフ	1
試験管ミキサー	4
純水製造装置	1
オートデシケーター	2
クリーンベンチ	1
高速遠心分離器	2
PCR 用機材一式	1
Real-Time PCR 用機材一式	1
超低温フリーザー	1
pHメーター	1

## (2) 理化学検査室

品名	数量
超高速ホモジナイザー	4
試験管ミキサー	1
フードプロセッサー ロボクープミキサー	1
フードプロセッサー クイジナートミキサー	1
トリオブレンダー	2
電子上皿天秤	5
天秤台(除振台)	2
超音波ピペット洗浄器	1
マッフル炉	1
電気定温乾燥器	2
ボトルキャビネット	6
デシケーター	3
薬用冷蔵庫	2
冷凍冷蔵庫	1
フリーザー	1
アスピレーター	3
吸引マニホールド	3
遠心分離器	2
シェーカー	1
ロータリーエバポレーター	6
コンプレッサー	1
低温循環水槽	4
水蒸気発生装置	3
超音波洗浄器	2
生物環境調節装置	1
ガラス電極 pH メーター	1
分光光度計	1
水銀分解装置	1
水銀分析装置	1
紫外線照射器	2
過酸化水素計	1
ガスクロマトグラフ質量分析計	1
高速液体クロマトグラフ	2
高速液体クロマトグラフ質量分析計	2
シンチレーションサーベイメータ	1
ガンマ線核種分析システム	1
スーパーシールド遮へい缶	1



(3) 病理・寄生虫検査室

品名	数量
顕微鏡	1
実体顕微鏡	1
顕微鏡撮影装置	1

(4) その他

品名	数量
冷蔵庫	2
冷凍庫	5
スライドプロジェクター	1
赤外線温度計	8

## 第2 業務実績



細菌検査業務

理化学検査業務



監視業務

# 1 業務実績

## (1) 監視指導業務

中央卸売市場本場食品衛生検査所では、早朝監視及び通常監視を行っています。早朝監視は、せり売り開始前の午前3時すぎから2名の食品衛生監視員が、有毒有害魚介類及び違反・不良食品の排除並びに生食用貝類の温度測定等を行っています。通常監視は、せり売りされた食品が仲卸店舗や市場内外の関連施設に移動した段階で、これら食品の取扱い及び保管状況等の監視指導を行っています。

令和元年度は、両市場内551施設に対し、延べ13,169件の監視指導を実施しました。(P.16)

毎年、高温多湿となる6月1日から8月31日までを『夏期食品等一斉点検期間』、食品の流通量が増加する11月1日から12月30日までを『年末食品等一斉点検期間』に設定し、食中毒の予防、不良食品の排除及び適正表示の徹底を目的とした、監視指導及び収去検査を実施しています。

令和元年度の主要業務(P.14～15)

## (2) 検査業務

令和元年度の中央卸売市場本場における農産物の年間取扱量は、約36万トン、水産物は約5万トンでした。(P.2)

これらの食品について、月別、品目別に年間計画に基づき、理化学検査及び細菌検査を行いました。1,735検体の食品等を収去し、理化学検査を30,611項目、細菌検査を3,787項目、表示検査を486項目、計34,884項目の検査を実施しました。なお、魚介類のPCBの検査については、市衛生研究所に検査を依頼して実施しました。

また、市内のスーパー等で販売されているそうざい、洋生菓子や各種食品製造工場の製品等について、福祉保健センター及び食品専門監視班から理化学検査3,472項目、細菌検査879項目、計4,351項目の検査を実施しました。

この他、信頼性確保のための精度管理157項目の検査を実施しました。

(P.17)

### ア 理化学検査

#### (ア) 食品添加物

保存料、着色料、発色剤等の食品添加物が適正に使用され、かつ適正に表示されているか、検査を実施しました。(P.18)

#### (イ) 放射性物質

福島原発事故の影響を受けて、市内を流通する食品中の放射性物質の核種分析検査を実施しています。市場流通水産物132検体、農産物31検体、量販店等流通販売品36検体の検査を実施しましたが、基準値を超えるものはありませんでした。(P.20～26)

#### (ウ) 残留農薬

およそ280種の農薬について残留農薬検査を実施しました。国産農産物131検体(場内流通品117検体、センター依頼品14検体)、輸入農産物11検体の検査を実施し、パセリ1検体と根生姜1検体について残留基準値を超える農薬を検出しました。(P.27～31)

(エ) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)

魚介類、鶏卵など計43検体について検査を実施しましたが、基準値を超えるものはありませんでした。(P.32)

(オ) 水銀

魚介類50検体の検査を実施し、スズキ1検体について暫定的規制値(0.4ppm)を超える総水銀を検出したため、本市衛生研究所でメチル水銀検査を依頼したところ、暫定的規制値(0.3ppm)を超えるメチル水銀を検出しました。(P.33)

なお、ppmとは検体1kgあたりに含まれる水銀のmg数のことを言います。

(カ) PCB

魚介類10検体の検査を実施しましたが、暫定的規制値(遠洋沖合魚介類0.5ppm、内海内湾魚介類3ppm)を超えるものはありませんでした。(P.34)

なお、ppmとは検体1kgあたりに含まれるPCBのmg数のことを言います。

(キ) 貝毒

二枚貝が毒化する時期等の情報に基づき、二枚貝33検体の検査を実施しましたが、麻痺性貝毒(規制値4MU/g以下)、下痢性貝毒(規制値0.16mg OA当量/kg以下)について、規制値を超えるものはありませんでした。(P.35)

なお、MUとはマウスユニットの略で、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。また、OA当量とはオカダ酸当量の略で、測定で得られたオカダ酸、ジノフィシストキシン-1、ジノフィシストキシン-2の検出値に係数を乗じた値の総和のことを言います。

(ク) ふぐ毒

ふぐ加工製品(ふぐ刺し、ふぐちり材料パック入り等)5検体のふぐ毒の検査を実施しましたが、すべて検出限界値(5.25MU/g)未満でした。なお、MUとはマウスユニットのことで、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。(P.35)

イ 細菌検査

(ア) 規格基準の定められた食品

生食用かき、生食用鮮魚介類、魚肉ねり製品、食肉製品、冷凍食品、アイスクリーム等について検査を実施しました。アオヤギ舌切(生食用鮮魚介類)1検体について腸炎ビブリオ最確数が120/gとなりました(規格基準:100/g以下)。(P.19)

(イ) 規格基準の定められていない食品等

a 衛生規範の定められた食品

そうざい類や洋生菓子など、衛生規範で生菌数などの指導基準が定められている食品について検査を実施しました。洋生菓子8検体について大腸菌群陽性、加熱そうざい1検体について黄色ブドウ球菌陽性でした。また、サラダ類3検体、弁当類2検体、洋生菓子1検体について細菌数超過となり衛生規範不適合でした。(P.19)

b その他

生食用及び加熱用かきについては、規格基準検査と同時に25検体のノロウイルス検査を実施しましたが、陽性となった検体はありませんでした。(P.19)

活魚水槽水(市場せり場内及び仲卸の店頭に設置)の検査は、活魚の多くが生食用に供されるため、これら使用水の食中毒菌汚染状況の把握を主目的として、海水、海水ろ過水とともに検

査を実施し、二次汚染防止に努めています。

生食用の貝類(舌切・小柱・アオヤギ等)、魚類(刺身用切り身、まぐろなど)及びウニ等については、規格基準項目に加えて食中毒菌も検査を実施し、取扱いについて注意を喚起しました。

(3) 違反食品等

食品表示法に関する違反を1件発見しました。

この食品には流通防止等の対応を図りました。(P.36)

(4) 相談対応

食品等の相談件数は 195 件ありました。(主な事例:P.37)

(5) 食品衛生検査所等の業務管理基準(GLP)

平成9年度から導入されたGLP(Good Laboratory Practice)に基づき、検査の精度管理を実施しました。外部精度管理、内部精度管理あわせて 157 項目を実施しました。(P.17)

## 2 令和元年度主要業務一覧

### (1) 収去検査関係業務

検査分類	主な対象品目	担当	実施期間
生食用鮮魚介類	小柱、舌切等	細菌	7月、11月、2月
輸入鮮魚介類	エビ、ウニ、アカガイ、ヒラメ等	細菌、理化学	4月から9月、1月から3月
養殖魚介類の動物用医薬品	エビ、タイ、ブリ、ウナギ蒲焼等	理化学	6月、7月、9月、11月、1月
養殖魚介類の抗菌性物質	エビ、タイ、ブリ、ウナギ蒲焼等	理化学	6月、7月、9月、11月、1月
魚卵類	イクラ、タラコ、カズノコ等	細菌、理化学	6月、9月、11月、12月
生かき	かき、岩かき	細菌	7月、10月から2月
魚介類の水銀	タイ、ヒラメ、イカ等	理化学	4月から7月、9月から11月、1月から3月
魚介類のPCB(注釈1)	タイ、ヒラメ、イカ等	理化学	6月、10月
酸化防止剤	煮干、めざし、干柿等	理化学	8月、10月、12月から2月
貝類毒性	ホタテ、アカガイ、ハマグリ等	理化学	4月から9月、3月
ふぐ加工製品毒性	ふぐさし、ふぐちり等	理化学	12月
寄生虫	ヒラメ	細菌	8月から3月
魚介類加工食品	魚肉練製品、佃煮、ゆでだこ等	細菌、理化学	通年
活魚水中の細菌	いけす水、ろ過海水	細菌	通年
氷雪	魚介類保存用氷雪	細菌	7月、8月
放射性物質	農水産物	理化学	通年
放射性物質(持込)	乳幼児製品、飲料水等	理化学	6月、8月、10月、11月、1月
残留農薬	国産農作物、輸入農作物	理化学	通年
防かび剤	輸入柑橘類	理化学	通年
生食用野菜	刺身のつま、カット野菜等	細菌	4月、8月、9月、11月、1月、2月
野菜豆類等加工食品	煮豆	細菌、理化学	5月、8月、10月から12月
漬物(野菜)	たくわん、刻みショウガ等	細菌、理化学	8月、10月
本場市場内加工調理品	卵焼、弁当、調理パン等	細菌	6月、7月、10月、12月、1月
南部市場内調理品	調理済み品、そうざい等	細菌	5月、3月
そうざい、菓子等	餃子、焼売、和菓子、洋生菓子等	細菌、理化学	5月から8月、10月、12月から3月
鶏卵	生卵	細菌、理化学	11月、3月
食肉製品等	ハム、ウインナー、スパム等	細菌、理化学	8月
夏期一斉	輸入食品等	細菌、理化学	7月
年末一斉	輸入食品等	細菌、理化学	12月
センター持込	輸入食品等	細菌、理化学	5月から1月
局専門監視班持込	菓子、もち、生食用カキ等	細菌	通年
局専門監視班持込	フキトリ	細菌	4月、7月から2月
局専門監視班持込	食肉製品	細菌、理化学	1月

注釈1) 検査は衛生研究所にて実施

(2) 監視指導業務

業務名	実施期間
魚介類販売の一斉監視指導	7月から8月、11月から12月
魚介類行商の一斉監視指導	8月
秀級施設の推進事業	8月から11月
表示点検	通年
学校給食用物資納入業者の監視指導	8月から3月
食中毒予防月間	8月
ホタテガイ等二枚貝の監視指導	通年

(3) 講習会、会議等

業務名	実施期間
食品衛生責任者講習会	9月
消費者衛生教育	通年
首都圏5都市市場検査所連絡会議	5月、2月
全国市場衛生検査所協議会関係	6月、11月

### 3 令和元年度監視業務実績

許可営業業種	本場 対象施設数	本場 監視件数	南部 対象施設数	南部 監視件数
飲食店 一般食堂	9	3	6	0
飲食店 レストラン	0	0	4	1
飲食店 すし屋	2	0	0	0
飲食店 そば屋	1	0	0	0
飲食店 中華料理店	0	0	2	0
飲食店 給食堂	5	0	3	0
飲食店 軽飲食	5	0	3	0
飲食店 弁当屋	1	0	1	1
飲食店 そうざい	0	0	3	0
飲食店 自動販売機による営業	0	0	3	0
飲食店 自動車による営業	1	0	0	0
菓子製造業	1	1	1	0
魚介類販売業	90	155	44	3
魚介類販売業 冷凍包装	11	5	3	0
魚介類販売業 冷蔵包装	1	0	1	0
魚介類販売業 冷凍又は冷蔵包装	3	0	5	0
魚介類せり売営業	2	0	0	0
魚肉ねり製品製造業	1	1	0	0
食品の冷凍又は冷蔵業	13	4	10	1
喫茶店	1	0	0	0
喫茶店 カップ式自動販売機	13	0	5	0
乳類販売業 専業販売	3	1	0	0
乳類販売業 店頭販売	4	0	8	0
乳類販売業 自動販売機による営業	3	0	1	0
食肉処理業	1	1	1	0
食肉販売業	2	2	3	0
食肉販売業 冷凍包装	9	7	3	1
食肉販売業 冷蔵包装	1	0	2	0
食肉販売業 冷凍又は冷蔵包装	5	4	4	0
醤油製造業	0	0	1	0
そうざい製造業	7	3	2	0
ソース類製造業	0	0	0	0
缶詰又は瓶詰食品製造業	0	0	0	0
冰雪製造業	1	0	0	0
冰雪販売業	1	0	1	0
魚介類行商	6	6	10	0
魚介類加工業	9	3	7	1
発酵乳等販売業	1	0	1	0
計	213	196	138	8

報告営業業種	本場 対象施設数	本場 監視件数	南部 対象施設数	南部 監視件数
工場・事業所給食	1	0	0	0
食品製造業	7	2	3	0
野菜・果物販売業	43	4	33	2
そうざい販売業	1	0	10	0
菓子販売業	1	0	14	0
弁当類販売業	1	0	4	0
酒類販売業	0	0	3	0
食品販売業	38	6	32	3
器具・容器包装・おもちゃ製造販売業	4	0	5	0
計	96	12	104	5

集計項目	本場	南部	計
許可・報告営業監視件数和	208	13	221
食品表示等監視件数	7,796	5,152	12,948
計(総監視件数)	8,004	5,165	13,169



4 令和元年度食品別検査状況

食品分類	取去検体数	検査項目数 (総数)	検査項目数 (理化学)	検査項目数 (細菌)	検査項目数 (表示)	検査項目数 (その他)	衛生研究所 搬入検体数	違反件数 (項目数) 総数	違反件数 (項目数) 理化学	違反件数 (項目数) 細菌	違反件数 (項目数) 表示	違反件数 (項目数) 監視	行政処分件数 (総数)	行政処分件数 (廃棄処分)	行政処分件数 (返品処分)	行政処分件数 (営業の系停止)	行政処分件数 (その他)	行政指導措置 等件数	衛生規範 不適合件数
魚介類	318	1,846	1,446	368	32	0	11	3	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0
無加熱採取冷凍食品 (冷凍食品)	10	47	0	38	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前に加熱された 加熱後採取冷凍食品 (冷凍食品)	2	8	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前に加熱された 加熱後採取冷凍食品 (冷凍食品)	7	72	45	21	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生食用冷凍鮮魚介類 (冷凍食品)	6	30	0	24	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚介類加工品 (かん詰、びん詰を除く)	607	4,286	2,523	1,526	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肉、卵類及びその加工 品 (かん詰、びん詰を除く)	25	1,050	951	84	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳製品及びびん 詰加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	33	102	0	99	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜類、果実類 及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	246	23,912	23,700	183	29	0	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0
菓子類	60	736	525	171	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清涼飲料水	10	240	200	30	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷雪	22	66	0	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水	207	621	0	621	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かん詰、びん詰食品	7	95	88	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の食品	175	1,773	1,133	550	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1,735	34,884	30,611	3,787	486	0	11	6	3	1	1	1	1	1	0	0	0	4	0
福祉保健センター等依頼検査 (ファクトリを除く)	集計 対象外	4,351	3,472	879	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外
精度管理検査	集計 対象外	157	111	46	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外
総計	1,735	39,392	34,194	4,712	486	0	11	6	3	1	1	1	1	1	0	0	0	4	0

食品分類	取去検体数	検査項目数 (総数)	検査項目数 (理化学)	検査項目数 (細菌)	検査項目数 (表示)	検査項目数 (その他)	衛生研究所 搬入検体数
調理器具等ファクトリ検査	集計 対象外	0	0	0	0	0	0
福祉保健センター等依頼検査 (ファクトリ)	集計 対象外	100	0	100	集計 対象外	集計 対象外	集計 対象外
総計	集計 対象外	100	0	100	0	0	0

## 5 令和元年度食品分類別・項目別検査状況 (1) 理化学検査実施項目数

食品分類	合成甘味料検査 (注釈2)	着色料検査 (注釈2)	合成保存料検査 (注釈2)	酸化防止剤検査 (注釈2)	発色剤検査 (注釈2)	漂白剤検査 (注釈2)	防かび剤検査 (注釈2)	放射性物質検査	残留農薬検査	動物用医薬品検査	重金属PCB検査	貝毒フグ毒検査	不揮発性アミン検査	計
魚介類	0	0	54	0	0	0	0	264	0	1,022	50	56	0	1,446
凍熱採取冷凍食品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍食(凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍食(凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	45
凍食(生食用冷凍魚介類)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚介類(加工品(かん詰、びん詰を除く))	5	1,694	517	45	29	31	0	0	0	0	0	5	197	2,523
肉、卵類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	0	99	27	0	9	0	0	0	0	816	0	0	0	951
乳製品(加工品及びその加工品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類(加工品及びその加工品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜類、果実類及びその加工品(かん詰、びん詰を除く)	20	242	58	6	0	1	14	62	23,297	0	0	0	0	23,700
菓子類	0	407	114	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	525
清涼飲料水	10	110	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200
氷雪(注釈3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水(注釈4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かん詰、びん詰食品	0	66	21	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	88
その他の食品	0	693	240	0	0	20	0	0	0	180	0	0	0	1,133
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	35	3,311	1,111	55	38	53	14	326	23,297	2,063	50	61	197	30,611
福祉保健センター等からの検査	72	638	251	39	15	2	0	72	2,383	0	0	0	0	3,472
精度管理検査	8	0	5	8	0	8	16	0	10	56	0	0	0	111
総計	115	3,949	1,367	102	53	63	30	398	25,690	2,119	50	61	197	34,194

注釈2:食品添加物

注釈3:主に、魚介類を冷やすために使われる、食用ではない氷を検査しています。

注釈4:主に活魚用水槽内飼育水と市場周辺の海水を検査しています。

(2) 細菌検査実施項目数

食品分類	一般生菌数検査	大腸菌群検査 (注釈5)	E.coli検査 数	E.coli最 確	黄色ブドウ球 菌	サルモネラ属 菌	クロストリジ ム属菌	腸炎ビブリオ ン	腸炎ビブリオ ン	ノロウイルス 検査	クドア検査	計
魚介類	82	0	54	28	82	0	0	23	59	25	15	368
冷凍食品 (無加熱)	10	10	0	0	10	0	0	2	6	0	0	38
冷凍食品 (凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品)	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6
冷凍食品 (凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品)	7	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	21
冷凍食品 (生食用冷凍鮮魚介類)	6	6	0	0	6	0	0	0	6	0	0	24
魚介類加工品 (かん詰、びん詰を除く)	440	102	338	0	440	0	0	206	0	0	0	1,526
肉類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	25	0	25	0	9	25	0	0	0	0	0	84
乳製品及び加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	33	16	17	0	33	0	0	0	0	0	0	99
野菜類、果実類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	61	0	61	0	61	0	0	0	0	0	0	183
菓子類	57	57	0	0	57	0	0	0	0	0	0	171
清涼飲料水	10	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	30
氷雪(注釈6)	22	22	0	0	22	0	0	0	0	0	0	66
水(注釈7)	207	0	207	0	0	0	0	206	1	0	0	621
かん詰、びん詰食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の食品	173	0	173	0	173	0	0	31	0	0	0	550
器具及び容器包装	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1,135	225	882	28	912	25	0	468	72	25	15	3,787
福祉保健センター等からの依頼検査 (フキトリを除く)	356 (うち違反または不適合事例数6)	61 (陽性数8)	183	18	214 (陽性数1)	19	0	10	0	18	0	879
精度管理検査	24	2	4	0	4	4	0	8	0	0	0	46
調理器具等フキトリ検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉保健センター等からの依頼検査 (フキトリ)	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
総計	1,615	288	1,069	46	1,130	48	0	486	72	43	15	4,812

備考:最確数とは統計的に最も確からしい数値のことです。

注釈5:大腸菌を含む。

注釈6:主に、魚介類を冷やすために使われる、食用ではない氷を検査しています。

注釈7:主に活魚用水槽内飼育水と市場周辺の海水を検査しています。

## (3) 食品中の放射性物質

## ア 水産物(市場買取分)

セシウム検出値、合計:1kgあたりのベクレル数

No.	品名	産地	漁獲水域及び水揚港	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	アイナメ	宮城県	三陸南部沖石巻港	平成31年4月12日	不検出	不検出	不検出
2	アカガレイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月7日	不検出	不検出	不検出
3	アカガレイ	北海道	北海道沖釧路港	令和2年3月13日	不検出	不検出	不検出
4	アカガレイ	北海道	北海道沖根室港	令和2年3月27日	不検出	不検出	不検出
5	ウスメバル	北海道	北海道沖函館港	令和元年7月5日	不検出	不検出	不検出
6	ウスメバル	青森県	青森県沖三八港	令和元年11月29日	不検出	不検出	不検出
7	ウスメバル	青森県	青森県沖下北港	令和元年12月13日	不検出	不検出	不検出
8	ウスメバル	青森県	青森県沖下北港	令和2年2月28日	不検出	不検出	不検出
9	ウスメバル	青森県	青森県沖下北港	令和2年3月13日	不検出	不検出	不検出
10	カツオ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年5月17日	不検出	不検出	不検出
11	カツオ	千葉県	千葉沖勝浦港	令和元年6月14日	不検出	不検出	不検出
12	カツオ	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	令和元年7月26日	不検出	不検出	不検出
13	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年8月2日	不検出	不検出	不検出
14	カツオ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月9日	不検出	不検出	不検出
15	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年9月19日	不検出	不検出	不検出
16	カツオ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年10月4日	不検出	不検出	不検出
17	カンパチ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年9月6日	不検出	不検出	不検出
18	キアンコウ	宮城県	三陸南部沖石巻港	令和元年12月24日	不検出	不検出	不検出
19	キチジ(キンキ)	宮城県	三陸南部沖石巻港	平成31年4月12日	不検出	不検出	不検出
20	キンメダイ	千葉県	千葉沖銚子港	令和元年11月8日	不検出	不検出	不検出
21	キンメダイ	千葉県	千葉沖勝浦港	令和2年2月21日	不検出	不検出	不検出
22	クロガレイ	北海道	北海道沖根室港	令和2年3月13日	不検出	不検出	不検出
23	ゴマサバ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月30日	不検出	不検出	不検出
24	サケ	青森県	青森県沖八戸港	令和元年11月15日	不検出	不検出	不検出
25	サケ	青森県	青森県沖八戸港	令和元年12月6日	不検出	不検出	不検出
26	サワラ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月30日	不検出	不検出	不検出
27	サワラ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年10月8日	不検出	不検出	不検出
28	サワラ	青森県	青森県沖八戸港	令和元年10月25日	不検出	不検出	不検出
29	サワラ(サゴシ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月26日	不検出	不検出	不検出
30	サワラ(サゴシ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月9日	不検出	不検出	不検出
31	サワラ(サゴシ)	青森県	青森県沖八戸港	令和元年9月13日	不検出	不検出	不検出
32	サワラ(サゴシ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年9月6日	不検出	不検出	不検出
33	サワラ(サゴシ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年10月4日	不検出	不検出	不検出
34	サンマ	北海道	北海道沖根室港	令和元年10月4日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	産地	漁獲水域及び水揚港	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
35	サンマ	北海道	北海道沖根室港	令和元年10月8日	不検出	不検出	不検出
36	サンマ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年11月15日	不検出	不検出	不検出
37	サンマ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年11月8日	不検出	不検出	不検出
38	サンマ	宮城県	宮城県沖女川港	令和元年12月6日	不検出	不検出	不検出
39	シログチ(イシモチ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月12日	不検出	不検出	不検出
40	ジンドウイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月7日	不検出	不検出	不検出
41	ジンドウイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月21日	不検出	不検出	不検出
42	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年12月24日	不検出	不検出	不検出
43	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	三陸南部沖石巻港	令和2年2月14日	不検出	不検出	不検出
44	スズキ	宮城県	気仙沼沖気仙沼港	令和元年5月31日	不検出	不検出	不検出
45	スズキ(フッコ)	千葉県	千葉県沖船橋港	令和元年10月4日	不検出	不検出	不検出
46	スルメイカ	青森県	青森県沖八戸港	令和2年1月17日	不検出	不検出	不検出
47	チダイ(ハナダイ)	千葉県	千葉県沖銚子港	令和元年6月7日	不検出	不検出	不検出
48	チダイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月12日	不検出	不検出	不検出
49	チダイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月2日	不検出	不検出	不検出
50	チダイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年9月13日	不検出	不検出	不検出
51	ニシン	北海道	北海道青森沖根室港	平成31年4月19日	不検出	不検出	不検出
52	ニシン	北海道	北海道青森県沖太平洋 根室港	令和元年5月31日	不検出	不検出	不検出
53	ニシン	北海道	北海道沖根室港	令和2年1月17日	不検出	不検出	不検出
54	ニシン	北海道	北海道沖根室港	令和2年2月28日	不検出	不検出	不検出
55	ニシン	北海道	北海道沖根室港	令和2年3月13日	不検出	不検出	不検出
56	ニシン	北海道	北海道沖標津港	令和2年3月19日	不検出	不検出	不検出
57	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	平成31年4月5日	不検出	不検出	不検出
58	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	気仙沼沖気仙沼港	令和元年5月31日	不検出	不検出	不検出
59	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年11月8日	不検出	不検出	不検出
60	ネズミザメ(モウカサメ)	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	令和2年1月31日	不検出	不検出	不検出
61	ババガレイ(ナメタガレイ)	岩手県	三陸北部沖宮古港	平成31年4月5日	不検出	不検出	不検出
62	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖石巻港	平成31年4月12日	不検出	不検出	不検出
63	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年5月17日	不検出	不検出	不検出
64	ババガレイ(ナメタガレイ)	岩手県	岩手県沖宮古港	令和元年6月7日	不検出	不検出	不検出
65	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	三陸南部沖石巻港	令和元年10月25日	不検出	不検出	不検出
66	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖八戸港	令和2年2月14日	不検出	不検出	不検出
67	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月21日	不検出	不検出	不検出
68	ハマトビウオ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月26日	不検出	不検出	不検出
69	ヒラメ	茨城県	日立鹿島沖ひたちなか港	平成31年4月19日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	産地	漁獲水域及び水揚港	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
70	ヒラメ	青森県	青森沖下北港	令和元年6月14日	不検出	不検出	不検出
71	ヒラメ	福島県	福島県沖相馬漁港	令和元年6月21日	不検出	不検出	不検出
72	ヒラメ	青森県	青森県沖下北港	令和元年7月12日	不検出	3.42	3.42
73	ヒラメ	青森県	青森県沖下北港	令和元年8月2日	不検出	不検出	不検出
74	ヒラメ	福島県	福島県沖相馬港	令和2年3月27日	不検出	不検出	不検出
75	ブリ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年6月7日	不検出	不検出	不検出
76	ブリ(イナダ)	千葉県	房総沖銚子港	平成31年4月19日	不検出	不検出	不検出
77	ブリ(ワラサ)	千葉県	房総沖館山港	令和元年5月31日	不検出	不検出	不検出
78	ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月9日	不検出	不検出	不検出
79	ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年9月19日	不検出	不検出	不検出
80	ブリ(ワカシ)	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年11月8日	不検出	不検出	不検出
81	ブリ(ワカシ)	宮城県	三陸南部沖石巻港	令和2年2月14日	不検出	不検出	不検出
82	マアジ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月26日	不検出	不検出	不検出
83	マアジ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年9月6日	不検出	不検出	不検出
84	マイワシ	千葉県	房総沖銚子港	平成31年4月5日	不検出	不検出	不検出
85	マイワシ	千葉県	房総沖銚子港	平成31年4月19日	不検出	不検出	不検出
86	マイワシ	千葉県	千葉県沖銚子港	令和元年5月17日	不検出	不検出	不検出
87	マイワシ	北海道	北海道青森県沖根室港	令和元年6月21日	不検出	不検出	不検出
88	マイワシ	北海道	北海道沖釧路港	令和元年6月7日	不検出	不検出	不検出
89	マイワシ	千葉県	千葉県沖銚子港	令和元年7月5日	不検出	不検出	不検出
90	マイワシ	北海道	北海道沖花咲港	令和元年8月30日	不検出	不検出	不検出
91	マイワシ	青森県	青森県沖八戸港	令和元年9月19日	不検出	不検出	不検出
92	マイワシ	青森県	青森県沖八戸港	令和元年10月8日	不検出	不検出	不検出
93	マガレイ	北海道	北海道沖根室港	令和2年3月27日	不検出	不検出	不検出
94	マコガレイ	青森県	青森沖下北港	令和元年5月24日	不検出	不検出	不検出
95	マコガレイ	青森県	青森県沖下北港	令和元年12月13日	不検出	不検出	不検出
96	マコガレイ	青森県	青森県沖八戸港	令和2年2月7日	不検出	不検出	不検出
97	マサバ	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	令和元年6月21日	不検出	不検出	不検出
98	マサバ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年7月5日	不検出	不検出	不検出
99	マサバ	宮城県	宮城県三陸北部沖 気仙沼港	令和元年11月29日	不検出	不検出	不検出
100	マサバ	千葉県	房総沖銚子港	令和元年12月24日	不検出	不検出	不検出
101	マサバ	宮城県	三陸南部沖石巻港	令和2年1月31日	不検出	不検出	不検出
102	マダイ	青森県	北海道青森県沖 下北漁港	令和元年6月21日	不検出	不検出	不検出
103	マダイ	青森県	青森県沖むつ港	令和元年9月6日	不検出	不検出	不検出
104	マダイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年10月8日	不検出	不検出	不検出

No.	品名	産地	漁獲水域及び水揚港	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
105	マダイ	青森県	青森県沖三八港	令和元年11月29日	不検出	不検出	不検出
106	マダラ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年8月2日	不検出	不検出	不検出
107	マダラ	北海道	北海道沖函館港	令和元年11月29日	不検出	不検出	不検出
108	マダラ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年1月17日	不検出	不検出	不検出
109	マダラ	岩手県	三陸北部沖宮古港	令和2年1月31日	不検出	不検出	不検出
110	マダラ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月28日	不検出	不検出	不検出
111	マボヤ	岩手県	岩手県沖大船渡港	令和元年5月17日	不検出	不検出	不検出
112	ミズダコ	青森県	青森県八戸港	令和元年5月24日	不検出	不検出	不検出
113	メカジキ	宮城県	宮城県気仙沼港	令和元年5月24日	不検出	不検出	不検出
114	メカジキ	宮城県	宮城沖気仙沼港	令和元年6月14日	不検出	不検出	不検出
115	メカジキ	岩手県	岩手県沖宮古港	令和元年7月5日	不検出	不検出	不検出
116	メカジキ	宮城県	日本太平洋沖気仙沼港	令和元年8月30日	不検出	不検出	不検出
117	メカジキ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年9月13日	不検出	不検出	不検出
118	メカジキ	宮城県	北海道沖気仙沼港	令和元年9月19日	不検出	不検出	不検出
119	メカジキ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年11月15日	不検出	不検出	不検出
120	メカジキ	宮城県	日本太平洋沖気仙沼港	令和元年12月24日	不検出	不検出	不検出
121	メカジキ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和元年12月6日	不検出	不検出	不検出
122	メカジキ	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和2年3月19日	不検出	不検出	不検出
123	メダイ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年1月17日	不検出	不検出	不検出
124	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年10月25日	不検出	不検出	不検出
125	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年12月13日	不検出	不検出	不検出
126	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和元年12月6日	不検出	不検出	不検出
127	ヤリイカ	茨城県	日立・鹿島沖久慈港	令和2年1月31日	不検出	不検出	不検出
128	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年2月21日	不検出	不検出	不検出
129	ヤリイカ	宮城県	宮城県沖石巻港	令和2年3月19日	不検出	不検出	不検出
130	ワカメ(メカブ)	宮城県	三陸南部沖気仙沼港	平成31年4月5日	不検出	不検出	不検出
131	ワカメ(メカブ)	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和2年2月14日	不検出	不検出	不検出
132	ワカメ(メカブ)	宮城県	宮城県沖気仙沼港	令和2年3月27日	不検出	不検出	不検出

## イ 農産物(市場買取分)

セシウム検出値、合計:1kgあたりのベクレル数

No.	品名	生産地	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	イチゴ	栃木県	令和元年5月10日	不検出	不検出	不検出
2	イチゴ	栃木県	令和2年3月6日	不検出	不検出	不検出
3	インゲン	福島県	令和元年8月23日	不検出	不検出	不検出
4	カブ	青森県	令和元年10月11日	不検出	不検出	不検出
5	キャベツ	神奈川県	令和2年3月6日	不検出	不検出	不検出
6	キャベツ	群馬県	令和元年9月27日	不検出	不検出	不検出
7	キュウリ	群馬県	平成31年4月26日	不検出	不検出	不検出
8	キュウリ	福島県	令和元年5月10日	不検出	不検出	不検出
9	キュウリ	福島県	令和元年6月28日	不検出	不検出	不検出
10	サツマイモ	茨城県	令和元年8月23日	不検出	不検出	不検出
11	サツマイモ	茨城県	令和元年9月27日	不検出	2.09	2.09
12	サツマイモ	茨城県	令和元年10月11日	不検出	不検出	不検出
13	レタス(サニーレタス)	茨城県	平成31年4月26日	不検出	不検出	不検出
14	シイタケ	岩手県	平成31年4月26日	不検出	5.8	5.8
15	スイカ	千葉県	令和元年7月19日	不検出	不検出	不検出
16	スナップエンドウ	福島県	令和元年5月10日	不検出	不検出	不検出
17	ダイコンの根	青森県	令和元年6月28日	不検出	不検出	不検出
18	ダイコンの根	神奈川県	令和元年11月21日	不検出	不検出	不検出
19	トマト	秋田県	令和元年7月19日	不検出	不検出	不検出
20	ナス	群馬県	令和元年5月10日	不検出	不検出	不検出
21	ナス	福島県	令和元年7月19日	不検出	不検出	不検出
22	ニラ	栃木県	令和2年3月6日	不検出	不検出	不検出
23	ネギ	茨城県	令和元年6月28日	不検出	不検出	不検出
24	ハクサイ	茨城県	令和元年11月21日	不検出	不検出	不検出
25	ピーマン	福島県	令和元年7月19日	不検出	不検出	不検出
26	ブドウ	長野県	令和元年10月11日	不検出	不検出	不検出
27	ミツバ	千葉県	平成31年4月26日	不検出	不検出	不検出
28	メロン	茨城県	令和元年6月28日	不検出	不検出	不検出
29	モモ	福島県	令和元年8月23日	不検出	不検出	不検出
30	リンゴ	青森県	令和元年9月27日	不検出	不検出	不検出
31	西洋ナシ	山形県	令和元年11月21日	不検出	不検出	不検出



ウ 量販店等流通販売品（区福祉保健センター等依頼検査分）

セシウム検出値、合計：1kgあたりのベクレル数

No.	品目	原材料 生産地	適用基準	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
1	乳飲料	記載無	牛乳	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
2	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
3	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
4	牛乳	記載無	牛乳	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
5	調製液状乳	記載無	乳児用食品	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
6	清涼飲料水	青森県	一般食品	令和元年6月10日	不検出	不検出	不検出
7	牛乳	神奈川県	牛乳	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
8	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
9	米(精米)	岩手県	一般食品	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
10	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
11	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
12	牛乳	記載無	牛乳	令和元年8月13日	不検出	不検出	不検出
13	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
14	清酒	記載無	一般食品	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
15	牛乳	北海道	牛乳	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
16	牛乳	記載無	牛乳	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
17	清酒	記載無	一般食品	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
18	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年8月26日	不検出	不検出	不検出
19	牛乳	記載無	牛乳	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
20	片栗粉	記載無	一般食品	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
21	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
22	米(精米)	茨城県	一般食品	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
23	牛乳	北海道	牛乳	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
24	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和元年10月30日	不検出	不検出	不検出
25	米(精米)	山形県	一般食品	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出
26	牛乳	岩手県	牛乳	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出
27	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出
28	調製粉乳	記載無	乳児用食品	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出
29	びん詰食品	記載無	乳児用食品	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出

No.	品目	原材料 生産地	適用基準	買取日	セシウム-134 検出値	セシウム-137 検出値	セシウム合計
30	牛乳	安曇野	牛乳	令和元年11月5日	不検出	不検出	不検出
31	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出
32	清酒	記載無	一般食品	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出
33	牛乳	記載無	牛乳	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出
34	清涼飲料水	記載無	乳児用食品	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出
35	レトルトパウチ食品	記載無	乳児用食品	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出
36	牛乳	記載無	牛乳	令和2年1月15日	不検出	不検出	不検出

## (4) 残留農薬

## ア 国産品(市場流通検査分)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
イチゴ	栃木県	3	2	フルジオキシニル0.06(5) 別検体から エトキサゾール0.05(0.5) プロシミドン0.08(5)
インゲン	山形県	1	0	不検出
インゲン	茨城県	1	0	不検出
インゲン	長崎県	1	1	フルフェノクスロン0.14(1)
カリフラワー	茨城県	1	0	不検出
キャベツ	群馬県	2	0	不検出
キャベツ	茨城県	2	0	不検出
キャベツ	千葉県	1	0	不検出
キャベツ	神奈川県	1	0	不検出
キャベツ	愛知県	1	0	不検出
キュウリ	山形県	1	1	ボスカリド0.1(5)
キュウリ	福島県	2	0	不検出
キュウリ	群馬県	1	0	不検出
キュウリ	埼玉県	1	0	不検出
キュウリ	神奈川県	8	5	プロシミドン0.08(4) 別検体から プロシミドン0.02(4) 別検体から プロシミドン0.03(4) 別検体から プロシミドン0.31(4) 別検体から クロルフェナピル0.04(5)
グリーンリーフ	茨城県	1	0	不検出
サツマイモ	茨城県	2	0	不検出
サツマイモ	千葉県	2	0	不検出
サニーレタス	長野県	1	1	クロチアニジン0.02(20)
サニーレタス	愛知県	2	1	ボスカリド20.95(40)
シントウ	山形県	1	1	ボスカリド0.06(40)
ジャガイモ	北海道	1	0	不検出
スイカ	茨城県	1	0	不検出
スイカ	千葉県	1	0	不検出
ズッキーニ	長野県	1	1	イミダクロプリド0.01(1)
ズッキーニ	宮崎県	1	0	不検出
セロリ	静岡県	1	1	クレソキシムメチル0.01(15)
ダイコンの根	千葉県	1	0	不検出
ダイコンの根	神奈川県	5	0	不検出
チンゲンサイ	茨城県	4	1	クロチアニジン0.06(10) チアメトキサム0.02(5)
トウガン	神奈川県	1	0	不検出

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
トマト	北海道	1	1	ボスカリド0.04(5)
トマト	福島県	1	0	不検出
トマト	千葉県	2	2	ボスカリド0.04(5) 別検体から ルフエヌロン0.02(0.5)
トマト	神奈川県	3	1	アゾキシストロピン0.04(3)
トマト	熊本県	1	1	ボスカリド0.16(5)
トマト(チェリートマト)	福島県	1	0	不検出
トマト(ミニトマト)	山形県	1	0	不検出
トマト(ミニトマト)	愛知県	2	2	シフルフェナミド0.02(0.5) チアクロプリド0.01(1) 別検体から シフルフェナミド0.01(0.5) チアクロプリド0.12(1) ボスカリド0.09(5)
トマト(ミニトマト)	熊本県	3	2	ボスカリド0.02(5) 別検体から ジメトモルフ0.05(3) チアクロプリド0.04(1)
ナス	岩手県	1	0	不検出
ナス	栃木県	1	0	不検出
ナス	群馬県	1	0	不検出
ナス	千葉県	1	0	不検出
ナス	山梨県	1	0	不検出
ナス	高知県	1	0	不検出
ニラ	山形県	1	1	クレソキシムメチル0.03(25)
ニラ	茨城県	2	0	不検出
ニンジン	北海道	1	0	不検出
ニンジン	千葉県	3	0	不検出
ニンジン	神奈川県	1	0	不検出
ネギ	山形県	2	0	不検出
ネギ	群馬県	1	0	不検出
ネギ	千葉県	1	0	不検出
ネギ	静岡県	1	1	アゾキシストロピン0.06(10)
ハクサイ	茨城県	1	0	不検出
ハクサイ	長野県	1	0	不検出
パセリ	長野県	1	1	ボスカリド0.03(0.01)
パセリ	福岡県	1	1	ピフェントリン0.72(3)
ピーマン	岩手県	2	1	プロシミドン0.19(5)
ピーマン	山形県	2	1	クロルフエナピル0.13(1)
ピーマン	茨城県	2	1	ピラクロストロピン0.01(1) ボスカリド0.07(10)
ピーマン	高知県	1	1	ピラクロストロピン0.1(1) ボスカリド0.57(10)
ブドウ	長野県	1	0	不検出

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
ブロッコリー	群馬県	1	0	不検出
ブロッコリー	愛知県	1	0	不検出
ブロッコリー	長崎県	1	0	不検出
ミカン	和歌山県	1	0	不検出
ミズナ	茨城県	3	2	チアメトキサム0.01(3) 別検体から チアメトキサム0.02(3)
メロン	茨城県	1	1	プロシミドン0.01(5)
モモ	福島県	1	0	不検出
モロヘイヤ	群馬県	1	0	不検出
ヤマイモ	千葉県	1	0	不検出
リンゴ	青森県	1	0	不検出
レタス	茨城県	2	0	不検出
レタス	長野県	1	0	不検出
レタス	香川県	1	1	チアメトキサム0.01(3)
日本ナシ	福島県	1	1	クレソキシムメチル0.02(5) ピラクロストロピン0.02(0.7) ボスカリド0.04(3)
未成熟インゲン	沖縄県	1	1	ヘキンチアゾクス0.03(1)
合計	23	117	38	48

イ 国産品(区福祉保健センター等依頼検査分)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
キャベツ	群馬県	1	0	不検出
キュウリ	秋田県	1	1	メタラキシル及びメフェノキサム0.02(1)
キュウリ	神奈川県	2	1	アゾキシストロビン0.17(1)
コマツナ	茨城県	1	1	フルフェノクスロン0.08(10) ルフェヌロン0.08(5)
ジャガイモ	神奈川県	1	1	イミダクロプリド0.01(0.4)
ダイコンの根	神奈川県	1	0	不検出
トマト	神奈川県	1	0	不検出
ナス	群馬県	1	0	不検出
ナス	神奈川県	2	0	不検出
ニンジン	北海道	1	0	不検出
ニンジン	千葉県	1	0	不検出
ブロッコリー	神奈川県	1	1	アゾキシストロビン0.01(5)
合計	6	14	5	6

ウ 輸入品(市場流通検査分)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

農産物名	生産地	検体数	検出検体数	薬剤名及び検出値(基準値)
オレンジ	アメリカ	1	1	イマザリル1.35(5) チアベンダゾール1.06(10)
オレンジ	オーストラリア	1	1	イマザリル1.5(5) チアベンダゾール0.13(10) ピリメタニル0.62(10) フルジオキソニル0.84(10) メチダチオン0.2(5)
オレンジ	南アフリカ共和国	1	1	アゾキシストロビン0.02(10) イマザリル1.11(5) チアベンダゾール0.71(10)
グレープフルーツ(赤)	アメリカ	1	1	イマザリル0.2(5) ジフルベンズロン0.03(3) チアベンダゾール0.48(10) ピラクロストロビン0.02(2)
グレープフルーツ(白)	アメリカ	1	1	イマザリル1.12(5) クロルピリホス0.03(1) チアベンダゾール0.43(10) ピラクロストロビン0.02(2)
ショウガ	中国	3	1	クロチアニジン0.54(0.02)
バナナ	フィリピン	1	1	クロルピリホス0.02(3)
バナナ(果肉)	フィリピン	1	0	不検出
レモン	アメリカ	1	1	アゾキシストロビン0.56(10) イマザリル1.54(5) チアベンダゾール0.63(10) フルジオキソニル0.76(10)
合計	5	11	8	24

残留農薬検査項目(農薬名)

2-(1-ナフチル)アセタミド	4-CPA(4-クロルフェノキシ酢酸)	BHC	DDT	EPN
MCPB	TCMTB	XMC	アイオキシニル	アクリナトリン
アゾコナゾール	アザメチホス	アシフルオルフェン	アジンホスメチル	アゾキシストロピン
アトラジン	アニコホス	アメトリン	アラクロール	アラマイト
イサゾホス	イソキサチオン	イソキサチオンオキシソ	イソフェンホス	イソプロカルブ
イソプロチオラン	イプロバリカルブ	イプロベンホス	イマザリル	イミダクロプリド
インダノファン	インドキサカルブ	エスプロカルブ	エタメツルフロンメチル	エタルフルラリン
エチオフェンカルブ	エチオン	エトキサゾール	エトキシスルフロ	エトフェンブロックス
エトプロホス	エトリムホス	エンドスルファン	エンドリン	オキサジアゾン
オキサジキシル	オキサジクロメホン	オキサミル	オキシカルボキシ	オキシフルオルフェン
オリザリン	カズサホス	カルバリル	カルフェントラゾンエチル	カルプロバミド
カルボフラン	キナルホス	キノキシフェン	キノクラミン	キントゼン
クミルロン	クレノキシムメチル	クロキンセットメキシ	クロゾリネート	クロチアニジン
クロフェンテジン	クロブロッ	クロマゾ	クロマフェノジド	クロメブロッ
クロランスラムメチル	クロリダゾン	クロリムロンエチル	クロルエトキシホス	クロルタールジメチル
クロルピリホス	クロルピリホスメチル	クロルフェナビル	クロルフェンソ	クロルプロファミ
クロロクスロン	クロロネブ	クロロベンジレート	シアナジン	シアノホス
ジウロン	シクラニリド	ジクロスラム	シクロスルファミロン	ジクロトホス
ジクロフェンチオン	ジクロホップメチル	ジクロメジン	ジクロラン	ジクロルブロッ
ジスルホト	シニドエチル	シハロホップチル	ジフェナミド	シフルフェナミド
ジフルフェニカン	ジフルベンズロン	シプロジニル	1,1-ジ(4-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタ	シメコナゾール
ジメタメトリン	ジメチピ	ジメチリモール	ジメテナミド	ジメトエート
ジメトモルフ	シメトリン	ジメピベレート	シラフルオフェン	スピノサド
スピロキサミン	ターバシル	ダイアジノ	ダイムロン	チアクロプリド
チアベンダゾール	チアメトキサム	チオベンカルブ	チオメト	チフルザミド
テクナゼン	テトラクロルピホス	テトラコナゾール	テトラジホ	テニルクロール
テブコナゾール	テブチウロン	テブフェノジド	テブフェンピラド	テフルトリン
デメト-S-メチル	テルブトリン	テルブホス	トリアレート	トリクロビル
トリシクラゾール	トリチコナゾール	トリデモルフ	トリブホス	トリフルムロン
トリフルラリン	トリフロキシストロピン	トルクロホスメチル	ナブタラム	ナプロアニリド
ナプロバミド	ニトロタールイソプロビル	ノバルロン	パクロプロトラゾール	パラチオン
パラチオンメチル	ハロキシホップ	ハロスルフロメチル	ピコリナフェン	ピフェノックス
ピフェントリン	ピベロホス	ピラクロストロピン	ピラゾスルフロエチル	ピラゾホス
ピラフルフェンエチル	ピリダフェンチオン	ピリフェノックス	ピリフタリド	ピリブチカルブ
ピリプロキシフェン	ピリミカーブ	ピリミノバックメチル	ピリミホスメチル	ピリメタニル
ピロキロン	ピンクロゾリン	フィプロニル	フェナミホス	フェナリモル
フェントロチオン	フェノキサニル	フェノキシカルブ	フェノチオカルブ	フェノトリン
フェンブカルブ	フェンアミド	フェンクローホス	フェントエート	フェンコナゾール
フェンプロバトリン	フェンプロピモルフ	フェンヘキサミド	フェンメディファミ	フサライド
ブタクロール	ブタフェナシル	ブタミホス	ブピリメート	ブプロフェジン
フラザスルフロ	フラムブロッメチル	フラメトビル	フルアクリリム	フルキンコナゾール
フルジオキシニル	フルシラゾール	フルトラニル	フルトリアホール	フルバリネート
フルフェノクスロン	フルフェンビルエチル	フルミオキサジン	フルミクロラックベンチル	フルメツラム
フルリドン	フレチラクロール	フロシミド	プロチオホス	プロバキサホップ
プロバジン	プロバニル	プロバホス	プロバルギット	プロビザミド
プロヒドロジャスモン	プロフェノホス	プロボキスル	プロマシル	プロメトリン
プロモキシニル	プロモプロビレート	プロモホスエチル	プロモホスメチル	フロラスラム
ヘキサコナゾール	ヘキサジン	ヘキサフルムロン	ヘキシチアゾクス	ベナラキシル
ベノキサコール	ベノキススラム	ヘブタクロ	ベンシクロ	ベンスルフロメチル
ベンゾフェナップ	ベンダイオカルブ	ベンディメタリン	ベンフルラリン	ベンフレセート
ボスカリド	ホスメット	ホメサフェン	ホルクロルフェニユロン	ホルモチオン
ホレート	マラチオン	マイクロブタニル	メカルバム	メソスルフロメチル
メタバズチアズロン	メタラキシル及びメフェノキサム	メチダチオン	メトキシクロール	メトキシフェノジド
メトスラム	メトミノストロピン	メトラクロール	メピンホス	メフェンビルジエチル
モノクロトホス	モノリニユロン	ラクトフェン	リニユロン	リンデン
ルフエスロン	計276項目			

農作物によって検査項目は異なります。

## (5) 動物用医薬品(抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、内寄生虫用剤等)

検出値、基準値:検体1kgあたりに含まれる農薬のmg数(ppm)

品名	検体数	検出数	薬剤名及び検出値(基準値)
うなぎ蒲焼	5	1	オキシリニック酸0.03(0.1)
冷凍エビ	12	0	不検出
鶏卵	16	0	不検出
カンパチ(養殖)	1	0	不検出
シマアジ(養殖)	2	0	不検出
スズキ(養殖)	1	0	不検出
ブリ(養殖)	2	1	エリスロマイシン0.05(0.06)
マダイ(養殖)	4	0	不検出
合計	43	2	2

## 動物用医薬品検査項目(薬剤名)

エトバベート	エリスロマイシン	オキシテトラサイクリン	オキシリニック酸
オフロキサシン	オルビフロキサシン	オルメトプリム	キシラジン
クロピドール	クロルテトラサイクリン	ジアベリジン	ジクラズリル
ジフルベンズロン	ジフロキサシン	スルファエトキシピリダジン	スルファキノキサリン
スルファクロルピリダジン	スルファジアジン	スルファジミジン	スルファジメトキシ
スルファチアゾール	スルファドキシ	スルファトロキサゾール	スルファニトラン
スルファピリジン	スルファプロモメタジンナトリウム	スルファベンズアミド	スルファメトキサゾール
スルファメトキシジアジン	スルファメトキシピリダジン	スルファメラジン	スルファモノメトキシ
スルフィソキサゾール	スルフィソゾール	ダノフロキサシン	チアベンダゾール(注釈1)
チアムリン	チルミコシン	テトラサイクリン	トリメトプリム
ナリジクス酸	ピランテル	ピリメタミン	ピロミド酸
ファムフル	フェノブカルブ	フルベンダゾール	フルメキン
マルボフロキサシン	メチルプレドニゾロン	モランテル	リンコマイシン
レバミゾール	計53項目		

検査項目は検体により異なります

注釈8:チアベンダゾールの検出値及び基準値は、  
 畜水産物ではチアベンダゾール及び5-ヒドロキシチアベンダゾールの和  
 その他ではチアベンダゾールのみ



## (6) 水銀

検出値:検体1kgあたりに含まれる総水銀のmg数(ppm)

魚 種	検 体 数	検 出 数	検 出 値 範 囲
ア カ カ マ ス	1	1	0.16
イ サ キ	1	1	0.17
イ ト ヨ リ ダ イ	1	1	0.08
ウ ス メ バ ル	2	2	0.03
カ ン パ チ	1	1	0.07
ク ロ ソ イ	1	1	0.11
ゴ マ サ バ	3	3	0.09~0.21
サ ヨ リ	1	1	0.02
サ ン マ	1	1	0.02
シ マ ア ジ	2	2	0.14~0.2
ス ズ キ	2	2	0.16~0.47
ト ビ ウ オ	1	1	0.07
ニ シ ン	3	3	0.04~0.05
ババガレイ(ナメタガレイ)	1	1	0.15
ヒ ラ メ	2	2	0.08~0.09
ブ リ	3	3	0.04~0.18
ホ ウ ボ ウ	1	1	0.14
マ ア ジ	8	8	0.02~0.09
マ イ ワ シ	5	5	0.01~0.02
マ コ ガ レ イ	1	1	0.03
マ サ バ	4	4	0.06~0.14
マ ダ イ	5	5	0.05~0.35
合 計	50	50	0.01~0.47

備考) 総水銀の暫定的規制値(0.4ppm)を超える総水銀を検出した検体は、本市衛生研究所にメチル水銀の検査を依頼しています。

本年度は暫定的規制値を超える総水銀(0.47ppm)を検出したスズキ1検体の検査を依頼し、メチル水銀を0.41ppm検出しました。これはメチル水銀の暫定的規制値(0.3ppm)を超えることから、魚介類の水銀の暫定的規制値超過として生産地を所轄する自治体に情報提供を行いました。

## (7) PCB

検出値:検体1kgあたりに含まれるPCBのmg数(ppm)

魚種	検体数	検出数	検出値範囲	暫定的規制値
アカカマス	1	1	0.01	3
クロソイ	1	0	不検出	3
ゴマサバ	1	0	不検出	0.5
サンマ	1	0	不検出	0.5
ブリ(ワカシ)	1	0	不検出	3
マアジ	2	0	不検出	3
マイワシ	3	0	不検出	0.5
合計	10	1	0.01	0.5又は3

## (8) 貝毒

麻痺性貝毒検出値:検体1gあたりのマウスユニット(注釈9)  
下痢性貝毒検出値:検体1kgあたりのmgオカダ酸当量数(ppm)(注釈10)

品名	形態	麻痺性 検体数	麻痺性 検出数	麻痺性 検出値範囲	下痢性 検体数	下痢性 検出数	下痢性 検出値範囲
アカガイ	殻付	7	2	1.92~2.06	7	0	不検出
アサリ	むき身	5	0	不検出	5	0	不検出
ハマグリ	殻付	7	0	不検出	7	0	不検出
ホタテガイ	殻付	14	1	2.02	14	7	0.02~0.12
合計	殻付むき身	33	3	2.17	33	7	0.01

注釈9:マウスユニットとは、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。

麻痺性貝毒の場合、体重20グラムのマウスが15分で死亡する毒力が1マウスユニットと定義されています。

注釈10:オカダ酸当量とは、測定で得られたオカダ酸、ジノフィシストキシン-1、ジノフィシストキシン-2の検出値に係数を乗じた値の総和のことを言います。

貝毒検査のうち、麻痺性貝毒検査はマウスを使用することが公定法で定められています。

マウスを使用して検査を行うにあたり、動物愛護管理法等に基づき、「動物実験等実施要綱」等を定め、「動物実験委員会」を設置、開催しています。

毎年度、動物実験委員会に当該年度のふぐ毒検査におけるマウスの取扱い状況等を報告するとともに、翌年度の検査計画等の妥当性等について承認を得たうえ検査を実施しています。

## (9) ふぐ毒

検出値:検体1gあたりのマウスユニット(注釈11)

品名	産地	種類	検体数	検出数	検出値範囲
ふぐちり鍋材料	国産	トラフグ	1	0	不検出
ふぐ刺し(筋肉)	国産	トラフグ	1	0	不検出
ふぐ刺し(皮)	国産	トラフグ	1	0	不検出
ふぐ皮	長崎県	トラフグ	1	0	不検出
身欠きふぐ	中国	シロサバフグ	1	0	不検出
合計	3	2	5	0	不検出

注釈11:マウスユニットとは、貝およびフグ等様々な毒素の影響量に対する単位のことを言います。

ふぐ毒の場合、体重20グラムのマウスが30分で死亡する毒力が1マウスユニットと定義されています。

ふぐ毒検査はマウスを使用することが公定法に準じた検査法(参考法)で定められています。

マウスを使用して検査を行うにあたり、動物愛護管理法等に基づき、「動物実験等実施要綱」等を定め、「動物実験委員会」を設置、開催しています。

毎年度、動物実験委員会に当該年度のふぐ毒検査におけるマウスの取扱い状況等を報告するとともに、翌年度の検査計画等の妥当性等について承認を得たうえ検査を実施しています。

## 6 違反食品等

No.	食品	根拠法令	違反等の内容	措置内容
1	生食用 鮮魚介類 (アオヤギ舌切)	食品衛生法 第 11 条 第 2 項違反	腸炎ビブリオ最確数 120/グラム検出 (規格基準 100/グラム)	製造所を所管する 自治体へ通報
2	パセリ	食品衛生法 第 11 条 第 3 項違反	ボスカリド 0.02ppm 検出 (基準値 0.01ppm<残留農薬の一律基準>)	指導票交付、 生産地を所管する 自治体へ通報
3	豆腐	食品表示法 第 5 条違反	日本語表示なし	指導票交付、販売者に 適正表示後販売指導
4	根生姜	食品衛生法 第 11 条 第 2 項違反	クロチアニジン 0.54ppm 検出 (基準値 0.02ppm 以下)	指導票交付、 輸入者を所管する 自治体へ通報
5	スズキ	水銀の 暫定的 規制値	総水銀 0.47ppm 検出かつメチル水銀 0.41ppm 検出 (暫定規制値総水銀0.4ppm かつメチル 水銀 0.3ppm)	生産地を所管する 自治体へ情報提供

## 7 相談対応(主な事例)

No.	概要	調査結果
1	包装されたチーズを開封し小分け・再包装して販売したい	ナチュラルチーズのみ乳製品製造業の許可を取得することで小分け・再包装業務が可能です。その他の乳製品については衛生管理の観点から小分け包装行為は認められません。
2	マグロ切り身中の異物	顕微鏡で確認したところ、クチクラ層(生物の表面を覆う膜)がなく、消化器官などの組織も確認できないことから、寄生虫等の生物ではなく、マグロの体組織の一部と推測されます。
3	アメリカオオアカイカ(ムラサキイカ)切り身断面の米粒大異物	顕微鏡で観察すると、寄生虫の組織ではなく、体組織の一部と思われます。相談者が仕入れ先に別途問合せしたところ、発光器であろうと言われたとのことです。
4	冷凍サーモンハラスの寄生虫様異物(薄茶色)	検体を保管容器から取り出す際にソース様の臭気を感じました。乾燥した異物表面を水洗すると薄茶色が脱落し、同時に表面の緑色小片も脱落しました。異物本体は吸水性があり、やや膨張して軟らかくなりました。異物にヨウ素液を垂らしてヨウ素-デンプン反応をみたところ、比較として用いた米粒と同様の呈色反応を示しました。緑色小片を顕微鏡下で観察したところ、海苔と同様の構造をしていました。以上のことから、異物は乾燥した焼きそばと判断しました。

## 8 衛生教育実施結果

令和元年度に、場内の食品関係業者及び給食施設従事者、並びに一般の見学者等について、講習会等衛生教育を行いました。

両会場の合計は、総回数 8 回、延人数 217 人でした。

会場	食品衛生責任者指定講習会等	消費者等見学者向け衛生教育
本場	なし	167 人(6 回)
南部	50 人(2 回)	なし

## 9 その他の業務

### (1) 環境保全に関する業務

ネズミ、ゴキブリ等衛生害虫駆除の指導

### (2) 広報業務

インターネットによる検査情報等の配信

## 食品衛生関係年表(S58年以降)

昭和58年	2月 9月 12月	●アオブダイの肝で食中毒発生(1名死亡) ●韓国産輸入生うにが原因と思われる食中毒多発 ●「ふぐの衛生確保について」厚生省通達
昭和59年	6月	●辛子蓮根によるボツリヌス食中毒事件発生
昭和60年	4月 8月	●TBTO問題について厚生省通達 ●ジェチレングリコール混入輸入ワイン事件発生
昭和61年	6月 8月 10月	●生鮮野菜等に発色・漂白目的で添加物を使用することの禁止が通達される ●横浜市内でヒメエゾボラのテトラミンによる食中毒が発生 ●「神奈川県ふぐ取扱及び販売条例」改正、届出による「ふぐ加工製品」の販売が可能になる
昭和63年	1月 2月	●シンチレーションサーベイメーターによる放射能測定検査開始 ●EDB暫定規制値改正(パパイヤ、サヤインゲンに加えて、マンゴーにも輸入・移送時の残留を認めない) ●いわゆる「背曲がりブリ」について取扱規制(場内業者あて通知)
平成元年	1月 3月	●輸入ナシフグによるとと思われる食中毒が散発、厚生省が監視・検査の強化を通達 ●チリ産ブドウのシアン混入事件発生
平成2年	4月 10月	●米国で必須アミノ酸であるL-トリプトファン製造過程で不純物が混入したため利用者に健康障害が多発し、患者1500名、死者21名に達した ●井戸水を原因とする腸管出血性大腸菌による下痢症集団発生 ●洋菓子(ティラミス)によるサルモネラ食中毒事件散発
平成3年	8月	●千葉県と神奈川県でコレラ患者発生
平成4年	3月 4月 11月	●瀬戸内海及び三河湾産アサリが麻痺性貝毒で出荷自主規制 ●広島産の生かきが麻痺性貝毒で出荷自主規制 ●イマザリルが食品添加物として指定された
平成5年	2月 3月 4月 7月 9月 11月	●ナシフグの輸入・販売が禁止された ●食肉製品規格基準改正 ●中国産赤貝から麻痺性貝毒検出 ●横浜市食品監視機動班発足 ●農薬89種類の残留基準制定 ●横浜市でオゴノリによる食中毒発生(死亡者1名)
平成6年	8月	●中国・韓国産生うにの多くから腸炎ビブリオを検出、8月中の入荷を自主規制 ●輸入赤貝から相次いで着色料を検出

平成7年	2月	●米国産リンゴからTBZを検出
	5月	●食品添加物規制の見直し、残留農薬基準値策定の推進、営業許可の見直し等、食品衛生法の大改正
	9月	●国産・輸入ミネラルウォーターにプラスチック片などの異物混入
	10月	●輸入農産物を中心に残留農薬検査を開始
平成8年	3月	●中国産原料うに及びそのうにを使用したうに加工品からハウ酸を検出
	5～12月	●腸管出血性大腸菌O157による食中毒が全国的に発生し、感染者17,877名、健康保菌者1,475名、死者12名に達した
	5月	●乳類、一部の乳製品、食肉製品について総合衛生管理製造過程(HACCP)を経た製造の承認制度が始まる
平成9年	4月	●食品衛生検査施設における適正管理運営基準(GLP)が義務付けられる
	5月	●鮮魚への一酸化炭素の使用問題に対し、厚生省がマグロ、ブリ中の一酸化炭素の検査基準を通知
	6月	●東京都でマレーシア産オイスターソースからボツリヌスA型菌検出 ●大型原油輸送船ダイヤモンドグレース号座礁による東京湾原油流出事故発生
平成10年	6月	●東京都と富山県でイクラ醤油漬を原因とするO157による食中毒事件発生
平成11年	4月	●いか乾製品を原因とするサルモネラ・オラニエンブルグによる食中毒事件が全国的に発生
	10月	●茨城県東海村ウラン燃料加工施設で放射能漏れ事故が発生
	11月	●容器包装に入れられた生食用かきに「採取海域」の表示が義務付けられた ●鶏卵に期限表示などの表示が義務付けられた
平成12年	2月	●横浜市の同一チェーン店でハンバーグステーキを原因とする腸管出血性大腸菌O157による食中毒事件が発生
	6～7月	●雪印乳業(株)大阪工場で製造された低脂肪乳を原因とする黄色ブドウ球菌による食中毒が発生し、発症者は8府県で約6,500名に達した
	7～8月	●全国的に食品に関する苦情件数が前年度を大きく上回った
平成13年	4月	●関東・東北地方で牛タタキ、ローストビーフを原因とする腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生する
	7月	●生食用鮮魚介類等の規格基準が設定され、成分規格、保存基準等が施行される
	9月	●千葉県で国内初のBSE感染牛が発見される。翌日より全国で全頭検査を開始
	11月	●西日本を中心に韓国産生カキによる赤痢感染が多発し、輸入禁止となる
平成14年	5月	●中国産冷凍ほうれん草による残留農薬違反が問題となる
	9月	●なし、リンゴ等の農産物に無登録農薬(カプタホール、シヘキサチン)が使用される
平成15年	5月	●食品安全基本法の制定、食品衛生法の大改正が行われる
	9月	●本場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成16年	4月	●横浜市食品衛生監視指導計画に基づく監視指導を開始する
	6月	●南部市場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成17年	7月	●本場冷凍・塩干低温売場が稼動開始する
平成18年	5月	●改正食品衛生法施行に伴いポジティブリスト制度スタート
	8月	●両市場検査所にガスクロマトグラフ質量分析計が導入される



	12月	●ノロウイルスによる食中毒が全国的に大発生する
平成19年	9月	●宮城県で生産された「いかの塩辛」により、腸炎ビブリオによる食中毒事件が全国で散発的に発生する(市内で発生した事件がこの発端となる)
	12月	●フグの不適切な取り扱いによる事故が多発したことから厚生労働省より指導強化の通知が出される
平成20年	1月	●中国産冷凍餃子から農薬メタミドホスが検出され、健康被害が発生する ●茨城県で除毒されていないフグを喫食したことによる死亡事件が発生する
	9月	●両市場検査所にリアルタイムPCR装置が導入される ●中国にて健康被害の原因であったメラミンが混入した食品が輸入される ●非食用に限定された事故米穀を、非食用であることを隠して転売していたことが発覚する
	10月	●中国産冷凍インゲンから農薬ジクロロボスが検出され、健康被害が発生する
		●新型インフルエンザWHO 警戒水準フェーズ6 世界的流行(パンデミック) ●神奈川県食の安全・安心の確保推進条例施行(一部平成22年4月1日施行) ●賞味期限切れ冷凍うなぎ蒲焼きの賞味期限偽装事件が発覚する この冷凍うなぎ蒲焼きからマラカイトグリーンやロイコマラカイトグリーンが検出される
平成21年	6月	●神奈川県食の安全・安心の確保推進条例施行(一部平成22年4月1日施行)
	7月 10月	●賞味期限切れ冷凍うなぎ蒲焼きの賞味期限偽装事件が発覚する この冷凍うなぎ蒲焼きからマラカイトグリーンやロイコマラカイトグリーンが検出される
平成22年	4月	●宮崎県で牛の口蹄疫発生
	6月	●えび、かこのアレルギー表示義務化
平成23年	3月	●東日本大震災、福島第一原子力発電所事故の発生
	4月	●ユッケによる腸管出血性大腸菌食中毒事件が発生
	9月	●両市場検査所において食品中の放射性物質検査開始
	10月	●生食用食肉の規格基準が設定される
平成24年	4月	●食品中の放射性物資の基準値が設定される
	7月	●牛肝臓の生食用としての販売提供が禁止
	8月	●浅漬を原因とする腸管出血性大腸菌O157食中毒事件が発生
	10月	●両市場検査所において、ゲルマニウム半導体検出器を用いた放射性物質検査を開始
平成25年	10月	●大手ホテルやデパートの料理でメニューと異なる食材を使う虚偽表示問題が発覚
	12月	●冷凍食品から農薬マラチオンが検出され、健康被害が発生する
	12月	●和食がユネスコ無形文化遺産登録決定
平成26年	1月	●浜松市内の学校で給食のパンを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	7月	●中国の食肉加工会社で期限切れ鶏肉等を日本へ供給していた問題が発生
	7月	●静岡市内で冷やしキュウリによる大規模な腸管出血性大腸菌 O157事件が発生
	12月	●全国的に食品へ異物混入事件が相次ぎ、製造者側では自主回収対応等を実施
平成27年	3月	●南部市場食品衛生検査所が閉所し、本場食品衛生検査所と統合
	4月	●食品表示法施行
	6月	●豚の肉や内臓を生食用として販売提供することが禁止
平成28年	3月	●本場市場水産棟の低温化工事が完了
	8月	●神奈川県ふぐ取扱い及び販売条例が一部改正され、「ふぐ加工製品」を業として取り扱う場合は、知事の認証を受けなくても届出のみで調理・加工等を認められることとなった
平成29年	2月	●学校給食で提供された刻みのりを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	8月	●関東地方を中心に腸管出血性大腸菌O157 VT2による食中毒が発生

平成29年	9月	●新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まる
平成30年	6月	●15年ぶりの食品衛生法改正(HACCPに沿った衛生管理の制度化など)
	9月	●26年ぶりに国内で豚熱(豚コレラ)発生
	12月	●年間の最多食中毒発生原因がアニサキスの467件
令和元年	5月	●元号が令和に改められる
	9月	●南部市場に「賑わいエリア」が開業
	12月	●中国湖北省武漢で最初の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者が確認される
令和2年	2月	●新型コロナウイルス感染症予防のため、年度末食品衛生責任者講習会を中止する
	3月	●南部市場「賑わいエリア」の所管を金沢区福祉保健センターに移管



令和2年10月発行

食品衛生検査所事業概要

横浜市中央卸売市場

本場食品衛生検査所

〒221-0054

横浜市神奈川区山内町1番地

TEL045(441)1153